

1章 調査概要

1. 調査の目的

目黒区では、平成17年度に「めぐろ芸術文化振興プラン」を策定し、芸術文化の振興とそれを通し「豊かな人間性をはぐくむ文化の香り高いまち」の実現につながる施策を長期的、総合的、体系的に推進してまいりました。

この調査は、平成27年度には「めぐろ芸術文化振興プラン」策定後10年を迎えることから、改めて、区民の皆様の芸術文化に対するご意見やご希望などを調査、把握し、今後の芸術文化振興計画改定のための基礎資料を得ることを目的に実施したものです。

2. 調査の方法

調査対象：目黒区在住の満20歳以上の男女3,000人

抽出台帳：住民基本台帳(平成26年9月1日現在)による

抽出方法：層化無作為抽出

調査方法：郵送配布—郵送(無記名)回収

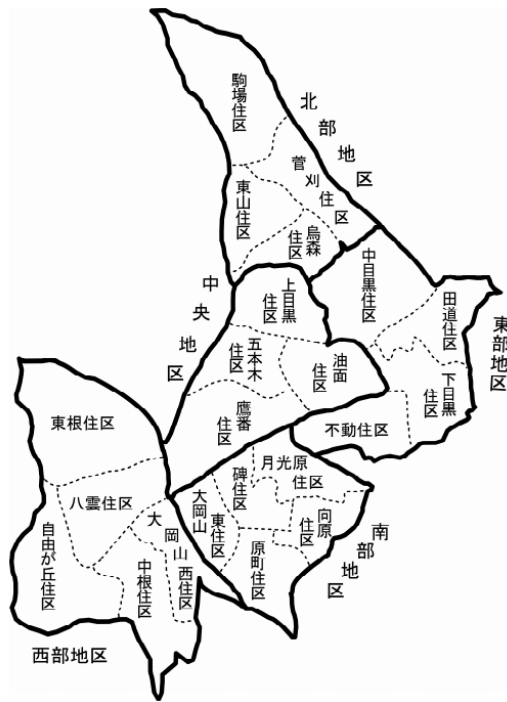
調査期間：平成26年9月16日(火) ～ 平成26年10月15日(水)

3. 回収結果

標本数：3,000

回収数：923 (回収率：30.8%)

4. 地域区分



地区区分図

地区	住区	区域
北部	駒場住区	駒場1～4丁目、大橋2丁目の一部
	菅刈住区	青葉台1～4丁目、大橋1丁目、上目黒1丁目の一部
	東山住区	東山1丁目の一部、同2・3丁目、上目黒5丁目の一部、大橋2丁目の一部
	烏森住区	東山1丁目の一部、上目黒2・3・5丁目の各一部
東部	中目黒住区	上目黒1～3丁目の各一部、中目黒1～3丁目、同4・5丁目各一部
	田道住区	三田1・2丁目、目黒1丁目、同2・3丁目の各一部、中目黒4丁目の一部
	下目黒住区	目黒2・3丁目の各一部、下目黒1～3丁目
	不動住区	下目黒4～6丁目、目黒本町1丁目
中央	上目黒住区	上目黒4丁目、中目黒5丁目の一部、五本木1丁目、祐天寺1・2丁目
	油面住区	中目黒5丁目の一部、目黒4丁目、中町1丁目、同2丁目の一部
	五本木住区	五本木2・3丁目、中央町2丁目、中町2丁目の一部
	鷹番住区	中央町1丁目、碑文谷5・6丁目、鷹番1～3丁目
南部	月光原住区	目黒本町2・4丁目、同3・5・6丁目の各一部
	向原住区	目黒本町3・5・6丁目の各一部、原町1丁目
	碑住区	碑文谷1・2丁目、目黒本町6丁目の一部
	原町住区	原町2丁目、洗足1・2丁目、南1丁目
	大岡山東住区	南2丁目、碑文谷3・4丁目
西部	大岡山西住区	南3丁目、平町1丁目、同2丁目の一部、大岡山1丁目の一部
	中根住区	大岡山1丁目の一部、同2丁目、緑が丘1・3丁目、中根2丁目、平町2丁目の一部
	自由が丘住区	緑が丘2丁目、自由が丘1～3丁目、八雲3丁目、中根1丁目の一部
	八雲住区	柿の木坂1丁目、八雲1・2丁目、中根1丁目の一部
	東根住区	柿の木坂2・3丁目、八雲4・5丁目、東が丘1・2丁目

5. 報告書の見方

- 図表中の「n」は、設問への回答者数を示しています。
- 調査結果（表中）の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出し、小数点以下第1位までを表示しています。したがって、回答者比率の合計は必ずしも 100% にならない場合があります。
- 複数回答形式の設問については、その設問の回答者数を基数として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計が 100% を超えることがあります。
- 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。
- 代表的な設問に対しクロス集計分析を行っています。その際、回答者数の少ない属性についてのコメントは控えている場合もあります。
- 設問に対する回答項目のうち、1位を **白文字**、2位を **太文字** で表示していますが、1位が複数ある場合には、2位の表示は行っていません。また、無回答についてはこの表示を行っていません。

6. 標本誤差

標本誤差とは、全体（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがありますが、その誤差のことを指します。この誤差は、標本の抽出方法や標本数により異なりますが、誤差を数学的に計算することが可能です。

本調査の回答結果から、母集団（目黒区在住の満 20 歳以上の男女）全体の比率を推定するため、無作為抽出法の場合の標本誤差の算出式と早見表を示します。

標本誤差算出式

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

- b = 標本誤差
- N = 母集団数（目黒区在住の満 20 歳以上の男女）
- n = 比率算出の基数（回答者数）
- P = 回答の比率（ $0 \leq P \leq 1$ ）

早見表

回答の比率 (P) 基数 (n)	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
923	±2.0%	±2.6%	±3.0%	±3.2%	±3.3%
800	±2.1%	±2.8%	±3.2%	±3.5%	±3.5%
600	±2.4%	±3.3%	±3.7%	±4.0%	±4.1%
400	±3.0%	±4.0%	±4.6%	±4.9%	±5.0%
200	±4.2%	±5.7%	±6.5%	±6.9%	±7.1%

この表は、ある設問の回答者数が 923 人であり、その設問中の選択肢の回答比率が 80%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.6%以内ということを表わしています。

例えば、「芸術文化に触れたり活動したりすることをどう思いますか」という質問について、「非常に大切だと思う」と回答した人が全体（n=923）の約 60%であった場合、標本誤差は±3.2%となり、芸術文化に触れたり活動したりすることを非常に重要だと考えている人の割合は、標本誤差を補正すると、56.8%から 63.2%の間にあることが 95%の信頼度で言えるということを表しています。